

年次総会

会員数44名、出席者29名

会員数の3分の1をもって、本クラブの年次総会の定足数とする

◆ 2019-20年度 会長エレクト、幹事エレクトの承認◆(敬称略)

2019-20年度 会長エレクト 山田吉盛 幹事エレクト 野崎地平

◆ 2019-20年度 理事役員の発表並びにご挨拶◆(敬称略)

会長 許斐義彦	会長エレクト 山田吉盛	直前会長 川瀬隆史	副会長 島田靖彦
幹事 嶽本幸次	幹事エレクト 野崎地平	SAA 古里安幸	会計 石野和生
クラブ管理運営プロジェクト委員会担当		山田吉盛 (出席、プログラム、親睦活動)	
会員増強プロジェクト委員会担当理事		馬場政徳 (会員増強、会員選考・職業分類)	
公共イメージプロジェクト委員会担当理事		日高豊久 (R情報・広報、クラブ会報・記録保存)	
奉仕プロジェクト委員会担当理事		水本由幸(社会奉仕、職業奉仕)	
国際奉仕プロジェクト委員会担当理事		北口功幸 (ロータリー財団、米山記念奨学)	
青少年奉仕プロジェクト委員会担当理事		深堀俊一(青少年、インターアクト)	



2018-19 年度半期報告 会長 川瀬隆史

会長として、半期を振り返って参りたいと思います。私はパワーポイントも使えませんが、幹事をお願いしてアナログで紙に書いてきましたので、それを見ながら皆様にご報告をしたと思います。12月に入りまして、いきなり暖かい日と寒い日が続きました。私にとってもあつという間の6か月間でございました。先ず会長として、年が年でもありますので、体調を維持してやってこられたことには、ホッとしております。

これは、会員の皆様のご協力と、幹事、事務局の支援のお蔭でございます。深く感謝しております。この半年間で私が感じて参りましたのは、国際ロータリーを含めてロータリークラブの「変化」の兆しです。実は公的な大会とか会議の場で、改革、変化、変わって行こうという言葉色々な方から聞きましたし、色々な講話といいますが、そういうものからも感じられましたし聞きました。私も西RCに少しでも変化の兆しを作ればと言う事で、行動してきたわけでございます。しかし、始まったばかりで会長としてやらなければいけないこととしては、各委員会の目標を立てる。クラブ委員会と地区委員会との間のコミュニケーションを奨励する。委員会の活動、目標、支出を確認し決定に参加する。興味深く充実した例会を企画実施する。また、会員が楽しめる親睦行事を開く。年度計画の進め方の確認。こういうことは会長としてしなければいけない。同時に私が当初目指したのは、組織の見直し。これはCLPへの取り組みというのがありました。それに伴う活動の絞り込み。そして、会員増強、出席率の向上、広報活動の変化。これを踏まえまして、世代間の交流、予算の有効活用、異業種連携を進めるということでもございました。でも、これら半年間を振り返ってみますと、私自身の活動を評価するとしたら「反省」の一文字でございます。まず、2740地区のガバナーの方針にあまり目がいかなかったというか、よくよく見ると米山記念奨学金寄付目標などは、ガバナーは16000円と定めています。これを例年通り13000円に決めましたのは私でもございまして、実に申し訳なく思っております。会員増強につきましては、期首が43名、現在は44名です。入会は、石山さん、柳さん、草野さんの3名で、退会は、高木さん、草野さんの2名です。しかし、実態は交代していただいたというのが正しいのではないかと思いますので、これについても「反省」しております。それから新人研修という点でも、新会員の方々が集まってメーキャップの仕方等々、教えることをやっております。カウンセラーも決めておりませんし、これについては非常に「反省」しております。やはりメーキャップのことを詳しくお伝えしておけば、欠席した後は他クラブなどでメーキャップすれば出席になると言う事で、出席率の向上にも繋がったと思います。これは申し訳なかったと思っております。そして、日常的な運営なんですけど、



これは私と担当理事、各委員会の委員長との情報の共有、コミュニケーションが満足なものではないと、私は自身を評価しております。私の働きかけが各委員会に足りなかったことを反省しております。また、若い人たちとのコミュニケーションですが、そういう場を作ることを私が出来なかったという点です。私の反省尚且つ力不足の部分でございますので、これから皆様のご指導をお願いしたいところでございます。ただ、一つ印象に残るのは、女性会員が誕生したと言う事です。これは、西RCの歴史の1ページに書かれる事になると思います。ありがとうございます。次に私の方からお願いでございますが、来年の8月3日に開催が決定しております、インターアクトの年次大会への協力のお願いです。先日実行委員会が立ち上げられまして、これから各部会が決まっていくと思います。今、担当理事、委員長とインターアクトとの打ち合わせが続いております。この年次大会というのは、私達だけではなくて9.10グループの他クラブの皆さんの協力を得ないとなかなか難しいところがあります。ひょっとしたらIMより難しいかもしれません。なにせ慣れない高校生と組み立てていくわけですから、そういう面での難しさもあると思います。15年前に年次大会をやっているのですが、その時の経験がある方はそんなにたくさんはいらっしゃらないと思いますが、その時の経験を少しでも活かしていただきたいと、私の方からお願いをしたいと思います。いろいろと面倒なことも出てくると思いますが、くれぐれもご協力をお願いいたします。また、各クラブのインターアクトの担当の人達と密に連絡をとって、情報共有をしていただきたいと思います。それから、CLP(クラブ・リーダーシップ・プラン)ということで、担当理事の担当していただく部門についてプロジェクトと名前を付けましたが、これはいつでも名前を変えていただいて結構なのですが、その担当理事、委員会が今後横断的に手を組んでやっていくことが、必要ではないかと思っています。人数も少なくなっていることですし、実際に活動できる人の数も少なくなっています。その分負担がかかるというのは事実ですので、出来るだけ集中してやるべきことを決めてやっていった方が、やり易いのではないかと思います。たとえば、これは例として聞いて頂きたいのですが、先週シーボルト大学と連携してやっている活動を発表してもらいましたが、このような奉仕プロジェクト委員会の活動を、出来れば外部にも知ってほしい。この前は国際コンベンション協会の村木さんに来ていただいて、一部興味を持って活動の発表を聞いて頂きましたが、出来ればこういうことは増やしたいと考えています。国際奉仕の活動も、これは外国との連携と言う事も出てきますので、それなりに広報活動と結び付けていくと、よりPRしやすいというふうに考えています。しかし、実際にはこれまで委員長の方々のご努力と、委員の方々のご努力で色々と成果がっております。まず、出席率の向上と言う意味では、色々とお願いで効果を上げております。先日の創立記念日の時に全員出席例会と言う事で、非常にいい出席率が出ましたし、国際奉仕の方では、米山奨学生のリョウ ウンエイさんのカウンセラー、地区委員が結婚式の時にはわざわざ中国まで行っていただきました。これについては心から御礼申し上げます。ありがとうございます。今後についてでございますが、今すでにあるもの、今までやってきたものの見直しと付け加えたら、もう少しよくなるんじゃないかと思えます。三宅さんにご苦勞をかけてクリーニングをやるのですが、クリーニングというテーマで言うと実は口腔クリーニング、口の中のクリーニングというのは非常に今興味を持たれているので、これは経験者の方がいらっしゃるの、それをマリア園にどうかと言う事ではなくて、インターアクトで出来ないかと考えます。インターアクトの例会の中でそういうことが一緒に出来て行って、少しずつ少しずつ共通の底流として流れるようなことが出来ないかと思えます。それとか北口さんの亀山電機さんがやっている「学生物作り&アイデアコンテスト」が非常に内容がいいです。今年の最優秀は、確か観光案内をするロボットのアイデアが出てます。こういうのは出来れば参加者を多くしたい。アイデアですからインターアクトの生徒たちに呼びかけて出てもらってほしいと思います。実際あるときには他クラブに働きかけて、参加というか見てもらうというように西クラブで、協力しながら新しいものに仕上げていくと言う事は有りだと思っております。その中には、サイバー犯罪に県警が担当部門を作って取り組んで行くことを発表してます。今日の新聞に載ってましたが、その中の最後のほうに中高生の教育とあります。それはSNSの利用と仕方と言う事で、今回インターアクト年次大会で長崎女子高校が取り組みたいということでやってもらいますが、そういうのはシーボルト大学とか、北口さんの会社の皆さんの知恵を借りれば、もっと色々出来ます。大学生の手を借りて、中学生に基本的なことを教えるというのはやれることだろうと思っております。それぞれが持っている能力と経験をもっと使っていったらどうかということです。それと親睦で、新しい親睦を付け加えて下さい。前に麻雀に1度か2度誘われたことがあります。たとえば、三宅さんと深堀さんからレコードを借りて番組の中で使わせていただきました。私も持ってるし皆さんの中でもレコードをお持ちの方は多いと思いますが、場所を設けてそのレコードを聴くことも親睦の要素になると思いますし、三宅さんの写真教室があってもいいんですよ。草野さんに裏千家のお茶の経験を活かして、米山奨学生に教えるのではなく飲んでもらって、日本文化の一端を知ってもらうのもいいかと思えます。うちだけでなく他の奨学生にも来てもらってほしいと思います。そういうことの積み重ねが少しずつ少しずつ西クラブを変えて行って、次世代につないで行ける踏み台になればと思っています。あと6か月残っていますので、その間に理事、委員長の皆さんと話しをさせていただいて、何らかの形で変化の兆しが少しずつ少しずつ広がることを願っています。よろしくお願ひいたします。

